

# 2021年度 自己評価結果報告書

—教職員編—

## 1 本園の教育目標

一 心豊かな思いやりのある子どもに

二 自ら考え、自ら決め、進んで行う子どもに

◎明るく潤いのある子ども ◎思いきり遊べる子ども ◎話をしっかり聴く子ども ◎調べたり、試したり、工夫する子ども

- 1 人との関わりを通して、基本的な生活習慣・態度及び健全な心身を育成することの必要性に気付き、自ら進んでその態度・意識を高めようとする意欲を育む。
- 2 自己発揮と自己抑制との豊かな調和がとれた自律性を養う。活動と休息、開放感と緊張感、動と静などの調和を保った健康的な生活リズムを保障する。
- 3 自然と豊かに関わることを通して、その不思議さ等に気付いたり、科学的認識を高めたり、昆虫などの生命ある小さきものをいとおしむ態度を培う。
- 4 心の働きの表れである『ことば』を大切にし、喜んで話したり、聞いたりする態度を養う。
- 5 多様な感動体験を伴う生活を通して、より豊かな感性を培い、創造する力、想像する力を豊かに育む。

## 2 本年度の重点評価項目、評価結果、取組・達成状況

重点評価項目		評価結果	取組達成状況
分類	内容		
保育の 計画性	3歳4歳5歳の連続性を重視し、子どもの成長発達に役立たせるために、前年度の担任と話し合う機会をパターン化させる。	B	・前年度の担任と話し合う機会がパターン化され成長に役立ててきたが、集団の育ちに繋がりにくい状況が見られた。集団の育ちの連続性を重視する為、3歳4歳5歳の発達段階を踏まえ一年間を通して育てたい。到達項目を教職員で話し合い、見通しを持って指導、援助を行っていききたい。その視点を持ち、話し合われたことを次の学年に繋げ、生かしていくことをパターン化させていく。
	人の話を聴くということの自立については、多少制約されつつも集団の中の一員としての自覚を持つよう導き、教師の指示ではなく、子ども自身の必要感に裏打ちされた自立的態度化を求めて日々子どもたちと接している。	B	・年少組では、話を聴くことに期待が持てるよう工夫することで、よく話を聴く様子が見られ、達成されていた。年中・年長組では、子どもたちが自ら聴こうとする自立的な態度を求めることに課題が残った。教師は子どもの興味を捉え、時間設定や話し方を工夫し、日常の楽しさの中から育つ面と、子どもたち自身が受け身ではなく、必要感から自らの力で考えられるように援助をしていきたい。
	指導計画は、自己発揮と自己抑制との豊かな調和がとれた自律性を養う保育を心掛け、幼児の生活が豊かになることを目標とし、幼児が主体的に関わり、安定して遊び込める環境を活動の展開に応じて再構成している。指導上配慮を必要とする園児に対しては、個別の指導計画を作成し、情報交換を密にして共通理解をもって対応する。行事は、幼児の実態に合わせて見通しを持って取り組んでいる。これからも、実際の子どもの姿を十分に見つめながら、互いに見通しを持った保育が展開出来るよう、共通理解を深めて行きたい。	B	・感染予防対策を講じる中、子ども達の興味関心を高める保育内容を日々の遊びや活動に取り入れてきた。年少組の『お祭りごっこ』、年中組の『探検ごっこ』、年長組の『海賊ごっこ』は、様々な活動に広がり、意欲的に取り組む姿が見られた。充実した内容を継続できるよう計画を再構成していきたい。また集団の中で自己発揮と自己抑制の調和のとれた自律性を養うために、充実した活動を展開出来るよう計画し、課題に向けて取り組みたい。 ・指導上配慮を必要とする園児に対して、個別の指導計画を作成し話し合うことで一人ひとりの成長や課題に向き合うことが出来た。今後も日程を調整し、情報交換を密に行い共通理解しながら対応していく。 ・感染予防対策を講じての行事は、発想の転換を試み、その中で充実出来たと思う。子ども達の興味に基づき活動を計画することが出来た。今後も子ども達の成長発達を重視し、教職員間で学び合いながら、教育活動を展開出来るように考えていきたい。

	<p>ひとりひとりのありのままの姿を受け入れ、幼児の気持ちに共感しながら“個と集団”の関係を常に考慮し、発達段階や個の特性に応じた、見通しのあるかかわりをしている。</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもひとりひとりを丁寧に受け止め、じっくり関わる様に意識してきた。特に気になる子への配慮として、個別の指導計画を作成し、教職員間の話し合いを深めてきたことで、一人ひとりへの関わり方を確認することができた。それぞれの発達段階や個の特性に応じた環境を設定する中で、個と集団を考慮した関わりなど、様々な環境を工夫する必要性を改めて感じた。今後も教職員間の共通理解を深め、場面に応じた関わりや対応の仕方を実践していきたい。</li> </ul>
<p>保育の在り方 幼児への対応</p>	<p>他のクラスや異年齢の幼児と関われるよう、様々な保育の形態を取り入れ、指導上配慮を必要とする園児については特に情報の交換を密接にし、共通理解をもって対応している。</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>感染予防対策を踏まえた上で異年齢の関りが持てるように工夫してきた。担任が異年齢のクラスを意識し保育を展開していく中で年長児に対する憧れや小さい友達への優しい気持ちなどが自然な形で芽生えていった。さらに感染予防対策の中でも、様々な保育形態を検討し、意図的に計画していきたい。</li> <li>指導上配慮を必要とする園児については、情報の交換をしながら進めてきているところである。今後も家庭や専門機関との連携を取りながら個別指導計画での話し合いを生かし共通理解を深め適切な関りが持てるように努力していきたい。</li> </ul>

<p>研修と研究</p>	<p>人間形成のために、本園の教育目標Ⅱ『自ら考え、自ら決め、進んで行う子どもに』を重視し、“幼児一人ひとりが人間として命を大事にして生きていくこと”と“自分に対して誠実に生きること”ということをお願い、遠い将来を見通した幼児教育を目指している。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育目標を念頭におき、子ども達一人ひとりの思いを大切にし、共感し、安心して自分を出せるように援助してきた。時代の進化、社会情勢、自然等、子ども達を取り巻く環境は変化をしているが、いつの時も子どもたちが自ら体験することで感じ考え行動出来る様に環境設定や子ども達への丁寧な関わりを続けていきたい。その中で一人ひとりを大事に思い、人との関わりや自然活動を通して命の大切さを伝えていきたい。</li> </ul>
	<p>教師一人一人が自らの課題を自覚し、自立していくために研鑽を深めていく。同時に各々の特性を生かした同僚性を効果的に展開し、保育の質の向上を目指していく。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンラインの研究会や園内研究で学んだ内容を日々の保育に活かし、今後も保育の質の向上に努めていきたい。</li> <li>・ほとんどの場面で同僚性を活かし協力しながら、保育を展開し効果的に取り組むことが出来た。その中で話し合いや園児について等の確認が必要な部分もあった。次年度はそのことを踏まえて計画的に進めていきたい。</li> </ul>
	<p>協同性と表現を大きな柱とし、保育を進める上で科学的な考察、実践的な考察を有機的に結合させていく。 これは、子どもの発達の見通しや家庭や小学校との連携においてもこの視点で伝えていく。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・協同性と表現を大きな柱とし、子ども達の興味関心に基づいた保育や表現を行うことが出来た。年少児、年中児は年間を通してごっこ遊びを展開し楽しみながら成長発達に繋げることが出来た。年長児は製作活動を得意とし、友だちの影響を受けながら取り組むことができた。次第に一人一人の創意工夫が深まり自信をもって発表することに繋がった。今後も充実した内容が継続できるように取り組みたい。</li> <li>・家庭や小学校に子どもの様子を丁寧に伝え、幼児期に大切なことをしっかりと伝え、連携していきたい。</li> </ul>

※自己評価欄の記入方

A ;十分に達成されている。

B ;ほとんど達成されているが、部分的に課題が積み残されている。

C ;課題が多く積み残され、ほとんど成果が上がっていない。

### 3 総合評価

- ・三密を避け室内や廊下、園庭等様々な場所で工夫し、感染対策を講じながら保育を行ってきた。このことを園児も受け入れながら生活してきた。更に保護者の理解や協力により教育活動を進められることが出来たのでよかったと思う。
- ・行事の見直しを行い、分散での園外保育、学年ごとの運動遊びの会、作品展示の方法と日程等、子どもたちの発達過程における保育の必要性を再度検討する機会となった。その中で、表現活動や製作活動などにおいて、イメージを広げ、創造力などが伸びていったと思う。
- ・農園保育を行い、福島を支援する取り組みとして野菜の注文販売を実施し売り上げと募金を福島診療所に送金し、千羽鶴も届けることが出来た。この活動を始めて11年目となり、今後も子どもたちと共に継続させていきたい。また社会情勢や自然災害等、身近に起きていることについて目をそらさず、教師自身の心が動き、命の尊さと平和について対話を重ねていくことが大事であり、教職員同士視野を広げ、保育に取り入れていきたい。
- ・集団の一員としての育ちの姿を教職員間で確認し合い、年齢ごとの生活態度等を共通理解し、必要な態度が身につくようにその到達点等を丁寧に話し合い、実践し、次年への生活や活動に繋がるように保育を進めていきたい。
- ・コロナ渦での教育活動を経験し、今後も子どもたちが安心して活動できる環境、幼児期に必要な経験が出来る保育を積み上げていきたい。さらに同僚性を生かし、園内研究や教材研究を充実させ保育の向上に努めたい。また教職員一人一人がオンライン等の研修において学ぶことに心がけてきたので今後も保育に活かせるようにしていく。
- ・保護者に対して幼児教育の重要性を理解し共有するためにクラスだよりを全家庭に配布している。その結果家庭からの感想等が増加した。今後も幼児教育を理解してもらうために発信していきたい。

#### 4 今後の改善点

改善点	具体的な取り組み内容
○個別支援計画の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間を通して継続できるように日程を決めて取り組み、教職員同士との共通理解にも繋げたい。</li> </ul>
○保護者との幼児教育の理解と共有	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラスだよりを通して保育のねらいや必要性を伝え、幼児教育の共通理解を図る。また写真を利用する等、園児の姿や心の育ち、環境等の重要性を知ってもらう。</li> <li>・必要な生活態度が身につくように共通理解を持ち取り組んでいく。</li> </ul>
○保育の計画性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育内容は具体的な活動内容を示し、目的が分かり易く取り組めるように計画する。</li> <li>・実体験を通し、子どもたち自身が生活に必要なことを知り、自ら行動出来るように計画する。</li> <li>・3歳4歳5歳の生活の連続性を確認し合い、発達段階に基づいて1年間で育て欲しい姿、生活態度の到達点を教職員間で共通理解できるように話し合い、集団生活の一員としての態度を育み、次年へと繋げていきたい。</li> <li>・個の育ちを見守りながら集団としての育ちを見通し、指導や援助を適切に行っていく。</li> </ul>